

ふくしま 再生 短信

5 / 1 4 霊山センター春の大宴会探訪

✧ 世界と交流 ✧

2016年5月14日午後6時40分、恒例の「霊山センター大宴会」がふくしま再生の会霊山センター・食堂棟で理事長の田尾陽一さんの司会で開催された。この日の参加者は総勢70余人、グループ参加は公益財団法人渥美国際交流財団・関口グローバル研究会(SGRA)から10名(今西淳子常務理事、角田英一事務局長含む)、認定NPO法人プラチナ・ギルドの会から12名(奥山俊一理事長、中町美佐子副理事長・事務局長含む)。霊山セン

ターが立地する伊達市東玉野・石田・掛田地区、飯館村

佐須・松塚・比曾・小宮地区から、明治大・東大はじめ研究陣も多数参加。イタリア、韓国、アメリカ、スウェーデン、カナダ、日本等国籍も多彩、参加メンバー構成も老若男女そのもの。

冒頭の挨拶で、帰村に向けて着々と新事業の準備を進める牧場主の山田猛史さん(左写真)は「困ったという話より前向きな元気が出る話を今日はしよう」と呼びかけた。会場の一隅で小サミットが持たれていた。渥美国際交流財団の角田さんとプラチナ・ギルドの奥山さんだ。「ふくしま再生」を世界ブランドにという企み。そう聞こえた。歴史を拓く大宴会的一幕だ。(撮影・文責：若林一平)



クマガイソウ・ジャイアント ミスカンサス・代掻き除染

5月14日午後、プラチナ・ギルド一行は比曾地区の菅野啓一農園を訪ねた。ちょうど居久根の杉林では啓一さん自慢のクマガイソウの

群生地が満開の季節を迎えていた(写真左)。同日啓一農園ハウス南側で、明大登尾研究室・中島亨チームはバイオ燃料として期待されるジャイアント



ミスカンサス試験作付け実施(写真中央)。5月15日午前SGRA一行は、小宮地区の大久保金一農園田圃で代掻き除染に挑戦(写真右)。この方法は「田車除染」で一躍有名になった東大・溝口勝理論を応用したもの。